

Report

令和3年(2021年)度「信州自然講座」「きずなフォーラム」合同開催  
北アルプス地域北部の生物多様性と気候変動

長野県の自然環境保全に関する、当研究所の研究成果や県内の団体の活動を共有するとともに、その現状と課題、取組について、県民のみなさんとともに考えることを目的に、平成16年(2004年)度から「信州自然講座」を開催してきました(当初は「公開セミナー」と呼称)。

平成27年(2015年)2月に「生物多様性ながの県戦略」の地域連携・協働促進プロジェクトをもとに設立された“信州生物多様性ネットきずな(会長:中村寛志 信州大学名誉教授)”が生物多様性保全のために同様の趣旨で開催してきたのが「きずなフォーラム」です。

両イベントは目的や趣旨が重なるため、昨年度から合同で開催しています。本年度も研究成果の発表、県内団体の活動紹介、意見交換会と盛りだくさんの内容でした。新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度に引き続いて県内在住の方限定(事前申込み)にしましたが、北アルプス地域を中心に92名にご参加いただきました。

意見交換会では、積雪、高山植物、シカについてたくさんの質問やご意見をいただきました。それらにもとづいて、議論を深めました。

(高野 宏平/自然環境部)

◎当日の講演要旨

[https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jisseki/koza/gakushukoryu/documents/20211123\\_shizenkoza\\_program.pdf](https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jisseki/koza/gakushukoryu/documents/20211123_shizenkoza_program.pdf)



ポスター会場

日時: 令和3年11月23日(火・祝)13~16時  
会場: 白馬村ウイング21(白馬村)  
参加数: 92名

プログラム

- ◆ 長野県環境保全研究所 成果発表
  - 1 生物多様性ホットスポット・白馬連峰の高山植物
  - 2 北アルプスのニホンジカ~大北地域の生息地利用
  - 3 北アルプス地域の気候変動とその影響
- ◆ 県内活動団体等の活動紹介
  - 1 信州生物多様性ネット きずな
  - 2 おたりギフチョウ・ヒメギフチョウを守る会
  - 3 辰野いきものネットワーク
  - 4 ミヤマシジミ研究会
  - 5 長野県希少生物保全調査会
  - 6 長野県烏川深谷緑地市民会議
  - 7 信州水環境マップ・ネットワーク

< 意見交換会での質問から抜粋(要約) >

【積雪】カマキリの卵の高さと降雪量は関係があるか?

【高山植物】

- ・ツクモグサの背がハケ岳より白馬村の方が高いように見えるが雪の影響か?
- ・今よりも暖かい時代(7000年前くらい)高山植物はどんな状態だったのか?

【ニホンジカ】

- ・シカの食性(夏のササ、カラマツ樹皮、キノコは食べるか?)
- ・シカの分布拡大(北アルプスの状況は? 舗装路や凍結防止剤の影響は? 年齢や性差は?)
- ・シカの生息数(北アルプスの生息数は? なぜ増えるのか? 抑制策は?)
- ・シカの高山帯への影響(侵入防止対策は? 緊急対策が必要では?)



北アルプス山麓のシカ



ツクモグサ



北アルプス白馬三山の雪解け

●感想(要点のみ)

【全般】

- ・白馬連峰の貴重さが良くわかった。守らねばならない自然を身近に感じた
- ・今後の状況は問題が山積み。何か具体的な動きをひとりひとりができるようにするとい
- ・危機感をもって、県民が日常生活の中で温暖化対策を実行していかなければ、貴重な植物が失われる。
- ・今日の内容を環境意識の高くない方々にも広く知っていただきたいと思う
- ・身近な自然を改めてみなおすきっかけになった。昔から好きだった自然観察を再開したい。
- ・行政が積極的に教育にかかわる事が鍵

【気候変動】

- ・環境変化の現状について理解が深まった。脱CO<sub>2</sub>については疑問の声もあり県としての明確な方針と周知が必要。
- ・長野県は森林によるCO<sub>2</sub>吸収量が多いと思われるが、ピンポイントで温暖化に対して良い影響は考えられるのか。
- ・県の取りくみを聞いて、ますます温暖化が怖くなり、困った問題だと感じた。一方で対策がどうなっているのか気になる。たて割り行政をなくしてすべての部署で共有し、すべての問題に取りくまなくてはいけないと思う。

【高山植物】

- ・北アルプスは高山のみならず山麓にも希少な生物がいることをもっとクローズアップして

【シカ】

- ・ニホンジカの今後の生息状況や対策を継続して知りたい。
- ・意見交換会での研究員の方の回答がとても面白く良かった。
- ・北アルプスのニホンジカが思ったより多い。南アルプスのような被害が心配。
- ・ニホンジカ増加はとヒトの将来と重なるようだった。何を何の為に守るのか、守られなかったらどうになってしまうのか。自然のつながり、人の行動、すごく複雑で難しいテーマ。



詳細は、研究所ホームページをご覧ください

[https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jisseki/koza/gakushukoryu/2021shizenkoza\\_houkoku.html](https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jisseki/koza/gakushukoryu/2021shizenkoza_houkoku.html)